

古社・古刹と記念館めぐりコース

(歩行距離 約 8.3 km 所要時間 約 2.5 時間)
コースのみどころ 等覚院・川勾神社・ふたみ記念館・吾妻神社・曾我兄弟の墓など





ガラスのうさぎ像

太平洋戦争末期、東京大空襲で母と姉を失い、疎開先の二宮では機銃掃射により父をも失う悲惨な体験を綴った自伝小説高木敏子著「ガラスのうさぎ」の中に、けなげに生きる少女を温かく励ます二宮の人達が描かれています。この像は平和の尊さと二度と戦争はあってはならないとの思いがこもった淨財で建てられています。手に持っているいびつなガラスのうさぎは母と姉を失った空襲の火災熱を表現しています。

とうかくいん 等覚院



古義真言宗の寺で、本尊は不動明王および両脇侍像、その他にも多数の仏像が置かれています。別名「藤巻寺」とも呼ばれており、薬師堂の前にはその由来となる町の天然記念物に指定されている古いフジの木があります。また、この寺の梵鐘も町指定の重要文化財で、町内に現存するものの中では最も古い梵鐘です。

かわわじんじや 川勾神社



延喜式（927年）にみられる川勾神社は二宮明神社とも言い、創祀は第11代垂仁天皇（在位前29～70年）の時代と伝えられ師長の国の一の宮でした。その後、相模の国が出来た時にその地位を寒川神社に譲ったと言われます。源頼朝ら鎌倉武士団や小田原北条一族の崇敬が厚く、小田原城の鬼門除守護神として保護されてきました。また徳川氏も代々よく信仰したと伝えられます。隋神門の左右に祀られている木像二躯は、度重なる兵火を潜りぬけた千年あまり前のものです。毎年五月五日には川勾神社を含め五社の神輿が神揃山（大磯町）へ集まる国府祭が有名で、相模の国の一の宮を争う故事を今に伝えています。



ふたみ記念館

二宮町の出身で異才の洋画家二見利節の作品を収蔵した記念館です。明治44年10月旧吾妻村（現山西）に7人兄弟の次男として生まれ、昭和6年小田原在住の画家井上三綱に油絵の指導を仰ぎ、昭和8年春陽会展に初入選した「温かい部屋」が画家二見利節の出発点と言えます。昭和14年代表作の「三人の女」を完成させ「T子」「横たわる女」が文展で連続特選となりました。昭和40年代に入り日動画廊の援助を受けて昭和47年に同画廊で個展を開催しましたが、昭和51年乳癌で生涯を閉じました。

開館時間：10～16時 休館日：月・火曜日（祝日の場合は開館し翌日休館）、年末年始



あづまやまこうえん 吾妻山公園

二宮町の中心に位置する標高136.2mの吾妻山を整備した都市公園です。散策道を抜けた山頂では、緩やかな斜面に芝生広場が広がり、背景には富士山や伊豆大島、伊豆半島や三浦半島までが見渡せます。また、1月～2月には約60,000株の菜の花が咲き、4月には桜、5月はつつじ、6月はあじさい、7月～8月にはコスモスなど、それぞれの季節に彩り豊かな花をお楽しみ頂けます。



あづまじんじや 吾妻神社

創建は第12代景行天皇（在位西暦71～130年）の時代だと伝えられます。日本武尊（景行天皇の第2子）が東征の途中、海路上総（千葉県）へ渡ろうとすると突如として暴風が起り、妻の弟橘媛命は海の神の怒りを鎮め、夫の武運を祈るために荒れる海へ身を投じるとたちまち海上は穏やかになりました。その後、海辺に流れ着いた命の櫛と小袖を人々が山頂に運び埋めました。この場所が吾妻神社であり、前一帯を埋沢（うめさわ）、

海岸を袖が浦と言うようになったと伝えられています。日本武尊が東北平定の帰路、相模の国から甲斐へ向る途中の峠で遙か東の海を眺めながら「あづまはや（吾が妻の意）」と嘆き、亡き妻を偲んだところから命を祀った山を吾妻山と呼ぶようになったと言います。



ちそくじ 曾我兄弟の墓（知足寺）

知足寺の境内西方の丘に、室町時代の『曾我物語』で有名になった曾我兄弟と二宮弥太郎朝定夫妻の大きな自然石の墓石があり、土地の人は「曾我兄弟の墓」と呼んでいます。兄弟は建久3年（1192年）5月父の仇工藤祐経を討って永年の本懐を遂げ、討ち死にしました。その後姉は出家し、ねんごろに兄弟の菩提を弔いました。

お問い合わせ

（ 湘南にのみや観光協会



〒259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮 961-26 町民センター内
TEL : 0463-73-1208
HP : <http://shonan-nominoya-kankou.com>
編集・発行 （一社）湘南にのみや観光協会
この印刷物の全部または一部を無断で複製使用する事を禁じます。 2026.1 改訂